

口上

コピーの品質はまの文化の尺度とい
はれる。わか刺文徳は新代作家の筆あとに
てのつくり質を現して来ることが、コピーは
もどろもどろ揃えの時代を築いて来るとい
所のまじりの、現下のわか刺文には真実だ
が深部に無しのこころに強けする一歩は、
いさういさう、結局は筆の補充し、たいし、
的であらう事おれたものであろう。これは創作
が面白い、が、巧みに、深切に翻案されてる

相馬屋製

多分、強が創作である。女の情まじり
翻案する、うは或地に、傷れ、主として英支
地を排してこの人だが、此翻案は現代英米
持拍の、けろ、書おれ、のあさうなる。新
も二つ三つ翻案の、臨かあ、南の、
長心のあ、る、取、翻案、批評、
の、り、割、合、は、読者、の、喜、ぶ、
甚だ、増、る、ので、あ、る、余、り、を、
に、風、俗、の、相、違、い、を、生、ず、る、種、の、
ソ、ま、け、の、潜、り、板、け、が、あ、る、す、
23x12

23x12

相馬屋製

奇聲をあげるのかく、

これは新編の倍以下である。翻訳は、
直律的に主硬である。初心の持者に
は、却つて清新である。如く、
外國情報が豊富である。翻案に至、
此の、
凡そ、
凡そ、
凡そ、



